

特別支援学校管理運営事業(内、支援学校送迎バス)

予算要求額 148,833千円 (前年度比 11,302千円増)

【本事業の目的】 本市立支援学校 2 校には、知的障害のある児童生徒が市内の全域から通学している。本事業は、障害のある児童生徒の通学の安全を確保するとともに、バスを用いて自分で通学することで自立をめざすことを目的として実施している。

【本事業の実態】 支援学校 2校(百舌鳥・上神谷)

- バスコース…百舌鳥 10 コース 上神谷 11 コース
- 平均乗車人数…約 17人
- 平均乗車率…約 85%
- 平均乗車時間…各コース 1 時間前後
- 添乗員数…全 21 コース中、12コースで 2 人配置

※いずれも26年度実績

参考【添乗員数 他市の状況】

政令指定都市(20 市中、14 市で送迎バスを運行)
(1 台あたり)2 人…8 市 1 人…2 市 3 人…1 市
1 または 2 人…2 市 1~3 人…1 市

都道府県

- バス内の状況による。1 または 2 人が多数
- 全車 2 人、状況により 1~3 人乗車もあり

支援が必要な児童生徒に関する課題

- 児童生徒は環境の変化に対応することが苦手で、パニックに陥りやすい。
- パニックは連鎖を起こしやすい。複数の児童生徒に連鎖した場合、大きなけがや事故につながる。
- さまざまな障害があり、個々の児童生徒に対し、個別の支援や介助が必要。

支援が必要な児童生徒を安全に送迎するために

■■■添乗員 2 人配置が必要■■■

【バス昇降時】昇降の介助をする際、バス内にいる児童生徒の安全確保を行う人員が必要。

【パニックなどの緊急時】走行中にパニックを起こし、危険な行為を行う児童生徒へ適切に対応し、車内全員の安全確保を行うには複数人が必要。

【事故などの緊急時】交通事故のみならず、渋滞や他者の事故などに巻き込まれたときも含め、平常時と異なる事態が発生した場合、添乗員は学校や保護者、警察など関係機関との連絡調整も行う。支援学校の教員や代車が現場に到着するまで、児童生徒を安全に車内に留めるなど安全確保を図る必要があるが、平均約 17 人乗車している障害のある児童生徒に対し、1 人では対応できない。

【これまでの経過(添乗員 2 人配置のコース数)】

